

県境防疫会議が開催されました

令和5年9月に3県境(滋賀県、岐阜県、福井県)および5府県境(滋賀県、三重県、京都府、大阪府、奈良県)の防疫会議がそれぞれ福井県および三重県で開催されました。

この防疫会議は、県境を接する府県同士が、制限区域円が県境を越えるような農場で特定家畜伝染病が発生した場合の、消毒ポイントの場所や運営についての情報等を持ち寄り、共有する場です。

また、日頃各地の家畜保健衛生所が抱えている課題についての情報も共有し、課題解決に向けた前向きな話し合いをする場でもあります。

今年度は、豚熱ワクチンや牛の炭疽ワクチン接種、家畜検査の手数料についての各

県の現状と今後の方針について等の議題が出ました。また、豚丹毒をワクチンプログラムの変更により終息に導いた事例や、小規模農家への指導方法等が報告されました。

ここ数年はコロナウイルス感染症の流行により、書面開催やリモートでの開催となった年もありましたが、今年度は久々に、どちらも各府県の担当者が実際に顔を合わせての会議開催となりました。

近頃の家畜伝染病の多発により、どの府県も厳しい状況下で努力している中、同じ立場の職員同士がお互いにアドバイスを送り合い、日々の業務に役立つ協議を行うことができました。(川本・杉本)

令和5年度行政体験研修について

当所では、例年夏季に、農家の皆様や関係各位のご協力をいただきながら、獣医学生を受け入れて行政体験研修を実施しています。人気があり、これまでも多数の方が受講され、一部の方は御縁をいただき、滋賀県へ就職されています。コロナウイルス感染流行中は、やむなく中止しておりましたが、昨年度から再開し、再び多くの研修生が受講されています。

令和5年度は、8月28日～9月1日および9月4日～9月8日の二期間で行政体験研修を実施しました。4校の大学から、1年生、3～5年生と幅広い年齢層で、女性5名、男性1名の参加がありました。研修内容は、当所が滋賀の畜産概要説明、病性鑑定業務、農家指導、危機管理対応等々を講義し、食肉衛生検査所、畜産技術振興センターが、

食肉処理の紹介、家畜の研究業務や扱い方等の内容を、それぞれ講義頂きました。研修生は、最初緊張していましたが、どの講義も興味深く受講し、積極的に質問するなど真摯な態度で熱心に受講されていました。受け入れ側の我々も、短い時間でしたが、現在の学生の日常等をうかがったりして、若者との貴重な交流が出来て、元気を貰ったように思います。

参加学生については、私たちの後輩になることを期待しつつ、今後の活躍を祈念いたします。現役学生が畜産分野や公務員獣医師の現状を知ることができる貴重な機会として、行政体験研修を継続してまいります。(平澤)